2022年・5月発行

# 小林ふみ子のまちづくりクラブニュース

長野市議会３月定例会では「**図書館**」について質問しました。

## ○ 学校図書館について

**質問-①）**

「主体的・対話的で深い学び」には、自分でテーマを決めて情報を収集し、考え、まとめ、報告する「調べ学習」が欠かせません。この学習を支えるには、司書教諭や学校司書、学級・教科担任の連携が重要になります。学級・教科担任が立てた指導計画を基に、司書教諭と学校司書が、自校に資料があるか調べ、足りない資料を計画的に購入したり、公共図書館から借りたりして資料を揃えます。しかし、**司書教諭は担任を持つなど多忙であり、学校司書は勤務時間が短いという課題があるのではないでしょうか？また、調べ学習には百科事典、図鑑などが必要になりますが、必要な資料を購入する予算は足りているでしょうか？**

**答弁）**

司書教諭は担任などと兼務し専任配置ではないことから、学校司書が図書館の業務を担うことも多く、勤務時間が不足しているとの声が寄せられている。今後、多くの教職員が関わって学校司書の業務を支援して司書の負担軽減につながるよう指導していく。また、専任の司書教諭の配置について国や県に働きかけたいと考えている。図書購入費については学校数や学級数に応じて必要な図書を選定して購入できるよう毎年相応の額の予算を配分している。百科事典は高額なため学校間で貸し出しができるよう工夫している。新年度、一部だが予算を計上した。

**質問-②）**

文部科学省は公立小中高校全てで図書館に新聞を複数紙置くよう都道府県教育委員会に通知し、必要な財政措置を講じました。これは、選挙権年齢の 18 歳以上への引き下げや、令和 4 年度からの民法に規定する成年年齢の 18 歳への引き下げに伴い、児童生徒が発達段階に応じて現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する主権者として必要な資質・能力を身に着けるための措置であり、目安とされる部数は１校当たり小学校2紙、中学校3紙、高校5紙とされています。

**長野市の小中高校への新聞配備の計画と予算はどのようになっていますか?**

**答弁）**

令和4年度当初予算に市立の全小中学校の学校図書館に子ども新聞を配備できる費用を計上した。市立高校にはこれまで通り（4紙）配備できる費用を計上した。計画期間内に目標配備数を達成できるようにしていく。

**「本を読んで感動した。元気になった。自分以外のことを知り、世界が広がった。」このように本は多くの人に豊かな内面と生きる力を与えます。**

特に子どもの成長・発達には大きな栄養となります。また、「読む力」は「学ぶ力」の基礎となります。本を読むことで「読解力」が養われ、「考える力」「書く力」「人に伝える力」が付いていきます。学校図書館は、家庭の経済力や地域格差など、子どもの置かれた状況に関係なくすべての子どもに公平に、本に触れあえる機会をもたらし、「学び」と「育ち」を支えています。

新学習指導要領では、学校教育を知識注入型から「主体的・対話的で深い学び」に転換する方向が示され、文部科学省は「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の主体的・対話的な学びの実現に向けた授業改善に生かす」として、必要な財政措置を行っています。

長野市議会3月定例会では
# 「図書館」について質問しました。

小林ふみ子のまちづくりクラブニュース　2022 年5月

発行・連絡先　　信州・生活者ネットワークながの　代表　丸山香里
〒381-0034　長野市高田 348 竹下ビル　TEL/FAX026-223-8900

## ○公立図書館について

**質問）**

「長野市図書館基本計画」には「本館と分室とのネットワーク化は、市民の要望の多い課題です。利用の多い分室と本館から離れた分室などを選定し、選定した分室と本館との間に、オンライン化による図書館システムにより、本館とのネットワークの構築を検討します。これにより、ネットワーク化した分室で、本館所蔵等の本の受け取りや返却ができるようになります。」とあります。令和2年のまちづくりアンケートでも、図書館を利用しやすくするために必要と多くの方が答えています。

**本館と分室のネットワーク化について検討の状況は？**

**答弁）**

ランニングコストが多額になることから実現には至っていない。来年度、長野県を主体に県内市町村が共同で導入する電子図書館に参画する。この電子図書館の機能が充実していくことで市民の利便性がより高められるのではないか。

## 答弁を受けて

**本館と分室（市立公民館にある）のネットワーク化が実現すれば、今よりずっと多くの市民が図書館サービスを利用できるようになります。検討を進めるよう要望しました。**

**市民の暮らしにとって図書館はとても大切な存在です。読書を楽しみ、暮らしに必要な情報を得ることはもちろん、県内でも塩尻市、飯田市、伊那市、松本市、須坂市、小布施町などでは、市民一人ひとりの学びや活動が生まれ、つながる場を生み出す図書館を目指した取り組みが行われています。**

**公立図書館は学校図書館を支える役割も担っています。子どもたちが本を通じて新しい世界と出会い、情報を読み解く力を得て、よりよい人生を歩むためには、公立図書館にどんな機能と役割を持たせるかが大事な鍵となります。図書館基本計画に目指す図書館像を描いて、取り組みを進めてほしいと思います。**

小林ふみ子のまちづくりクラブのホームページで全ての報告をご覧いただけます。
・アドレスはこちら→ https://seikatsushanet.com　・QR コードはこちら →

裏面には、**「体育館利用の未来を考える市民と行政の意見交換会」**のご案内と、
**「体育館の利用についてのご意見募集」**のお知らせがあります。

## 本当にこれでいいの？　公共施設の減らし方

長野市では、今後20年間に公共施設の延床面積を20％減らすとし、公共施設の廃止、統廃合が進められています。これから人口は少なくなっていきますので、計画的に公共施設を減らしていくことは避けて通れませんが、何をどう減らすのか、それが市民生活にどのような影響をあたえるのか、よく考えて進めなければならないと思います。

今回、勤労者福祉施設（南部・中部・北部勤労青少年ホーム）の統廃合が決まりました。この施設には体育館が付属していて、若い方たちが仕事を終えた後に集まってスポーツを楽しめる貴重な場所になっていました。また、日中も地域の方々が利用されており、古い施設ですが稼働率はとても高く、市民に有効に活用されてきました。しかし、この体育館3館は廃止するという市の方針が示されています。

私たちは、この3館以外の体育館を使用している方々にも意見を聞いてみましたが、予約を取るために苦労しているということでした。体育館の総数が減ると、今以上に予約を取りにくくなってしまうかもしれません。体育館は市民の生涯スポーツに欠かせない大切な施設です。長野市全体の体育館をこれからどうしていくのか、市民と行政が一緒に考えていけたらと思います。

そこで、市民有志により、体育館について市の担当者から方針を聞いて、意見交換する会を企画しました。関心のある方は、ぜひご参加ください。

### 体育館の利用についてのご意見、困りごと等をお寄せ下さい

・アンケートフォームアドレスはこちら　https://forms.gle/vVwL5ssXLra3mukr7

・アンケートフォームの QR コードはこちら ⇨

連絡先　０９０－９６６０－４８７１（丸山）

## 市民と行政の意見交換会

### 長野市の体育館利用の未来を考えてみませんか？

体育館を活用したまちづくりプロジェクト

長野市では現在、公共施設の再編が進められています。勤労者福祉施設についても統廃合が決まり、付属する体育館3館は廃止の方針が示されました。

長野市は他市に比べて体育館の数が多いということですが、利用率がとても高く、予約を取るのが大変な現状があります。体育館が3館減ってしまうと、今以上に予約を取ることが難しくなってしまいます。また、この先、他の体育館についても順次減らされていくのではないかという不安もあります。

＜公共施設の床面積 20％の削減＞という国の方針に沿う形とはいえ、体育館を『負の財産』として減らすことは現状に合っていません。体育館がたくさんあり無料で使えることは他市の人には魅力的に映っています。発想を転換し、『市の魅力アップにつながる有意義な財産』として活用する道はないのでしょうか？

地域ごとに存在する体育館の有効活用は、まさに新市長が提唱する「健幸増進都市」の推進へとつながります。体育館に関わるいろんな立場の人の知恵を結集させ、他市が真似したくなるような、体育館利用の“長野モデル”を考えてみませんか？

まず第一歩として、「長野市の体育館利用の未来を考えてみませんか？」と題して意見交換会を企画しました。どうぞご参加ください。

記

日 時　2022 年 5月16日（月）18時30分 ～ 20時

会 場　長野市中部公民館 1 階　研修室

連絡先 「体育館を活用したまちづくりプロジェクト」事務局
丸山 ０９０-９６６０-４８７１